

令和8年度 港中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

Ⅰ「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

Ⅰ 全国学力・学習状況調査

※英語はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（CBT=Computer Based Testing）で実施。

学年		生徒数 (人)	平均正答率 (%)		平均無解答率 (%)		平均IRTスコア
実施月日			国語	数学	国語	数学	(参考)英語3技能
3 年	学校	43	63	52	4.2	4.8	488
	大阪市	-	60	55	5.4	11.4	499
4月23日	全国	-	63.9	57.0	4.9	10.4	499

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

調査結果とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について

成果と課題

1 国語の結果と分析

- ・大阪市平均（60％）を＋3ポイント上回り、全国平均（63.9％）にはやや届かないものの、ほぼ同等の水準に位置している。

【成果と課題】

- 情報の扱い方に関する事項において、全国平均を＋6.3、大阪市平均を＋11.4ポイント上回る。

- 読むことにおいて、全国平均を－7、大阪市平均を－3.6ポイント下回る。したがって、読解力の育成について継続した授業実践に取り組む必要がある。

2 数学の結果と分析

- ・全国平均（57.0％）を－5ポイント下回り、大阪市平均（55.0％）を－3ポイント下回る結果となった。

【成果と課題】

- 数と式において、全国平均を＋1.5、大阪市平均を＋3.2ポイント上回る。基礎的な計算において、一定の成果が得られた。

また、平均無回答率において、全国や大阪市平均より低く、諦めず問題に取り組む姿勢が見られた。

- 図形において、全国平均を－13.2、大阪市平均を－12.1ポイント下回る。図形や立体について、基礎基本を身に着ける必要がある。

3 英語の結果と分析

- ・平均IRTスコア：本校488点であり、全国（499点）大阪市（499点）より11点低い水準であった。

- 「聞くこと（リスニング）」において、特に友達からのメッセージを読み、相手が示した条件に合うウェブサイトを選択する問題（質問8）の正答率は75.0％に達し、全国（63.8％）を＋11.2％大きく上回った。

- 職場体験の発表を聞き、その後に示される3枚の絵を体験した順になるように選択する問題（質問4）の正答率は25.0％（全国43.8％）と－18.8％と大きく下回った。

4 生徒質問紙より

- ・「自分にはよいところがあると思う」に対して、肯定的な回答（「当てはまる」）の合計が47.9％（全国41.0％、大阪市42.8％）と大きく上回った。

- ・「先生は自分のよいところを認めてくれている」について、肯定的な回答（「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」）95.8％（全国90.9％、大阪市91.0％）であり、生徒が教員から大切にされていると実感できている良好な人間関係が構築されている。

今後に向けて

◇ICT機器の日常的な授業活用（個別最適な学び・協働的な学びの推進）

- ・各教科において、授業の特性を生かしタブレット端末を活用する場面（意見共有、資料検索、スライド作成、学習教材、振り返り入力など）を意図的に設定し、日常的な活用度を向上させる必要がある。

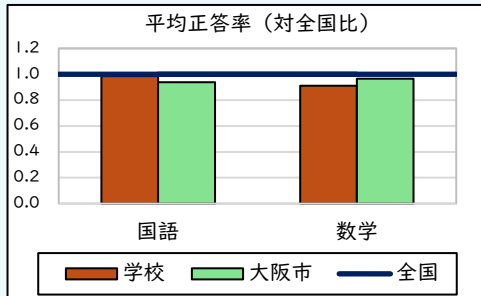
◇知識・技能を「使う」学習場面（言語活動・探究活動）の充実

- ・単なる暗記や演習にとどまらず、探究型の課題設定や発表活動の拡充など、推進していく必要がある。

令和8年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査結果の概要（国語・数学）

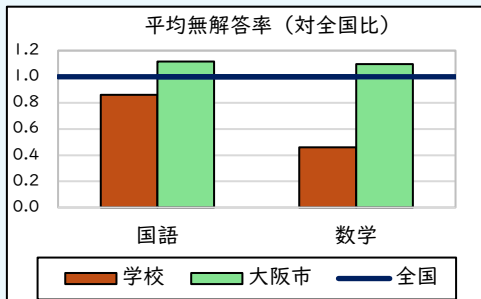
平均正答率（％）

	国語	数学
学校	63	52
大阪市	60	55
全国	63.9	57.0



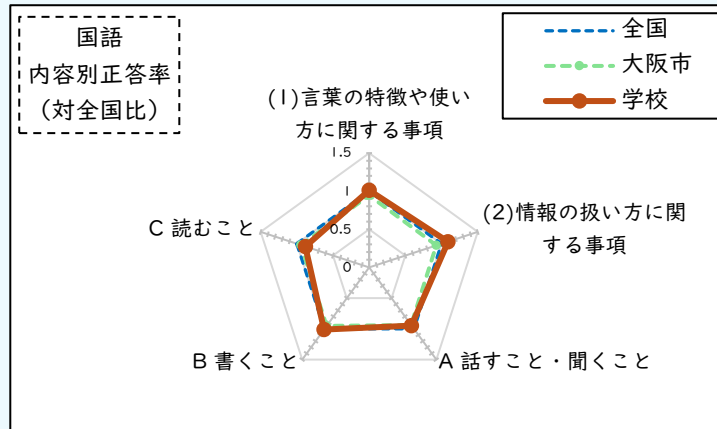
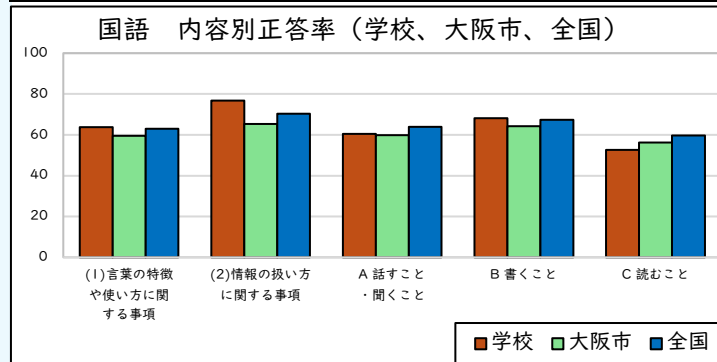
平均無解答率（％）

	国語	数学
学校	4.2	4.8
大阪市	5.4	11.4
全国	4.9	10.4



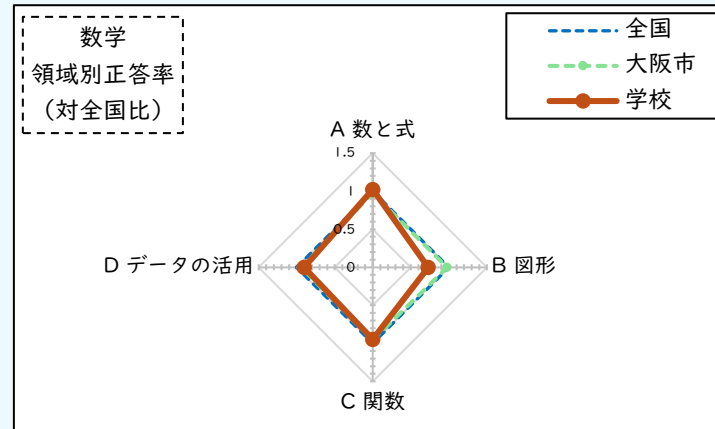
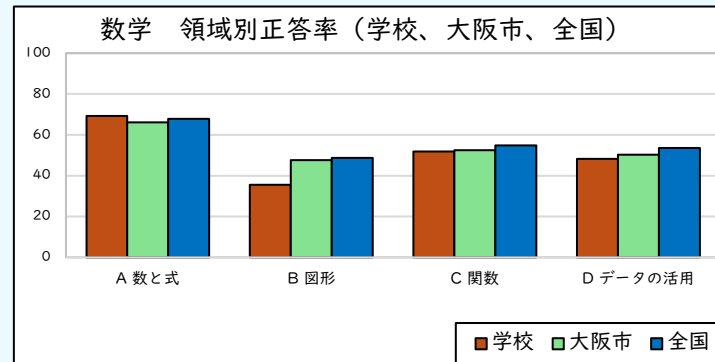
【国語】内容別正答率

学習指導要領の内容	対象問題数（問）	平均正答率（％）		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方にに関する事項	5	63.7	59.5	63.0
(2)情報の扱い方にに関する事項	1	76.7	65.3	70.4
(3)我が国の言語文化に関する事項	0	-	-	-
A 話すこと・聞くこと	3	60.5	59.9	63.9
B 書くこと	3	68.2	64.2	67.4
C 読むこと	3	52.7	56.3	59.7



【数学】領域別正答率

学習指導要領の領域	対象問題数（問）	平均正答率（％）		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	69.3	66.1	67.8
B 図形	4	35.5	47.6	48.7
C 関数	3	51.9	52.5	54.8
D データの活用	4	48.3	50.2	53.5



令和8年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査結果の概要（英語）

英語 平均IRTスコア

学校	(488)
大阪市	(499)
全国	(499)

※（参考）3技能の平均IRTスコアです



【IRT(Item Response Theory：項目反応理論）とは】

児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

【IRTスコアとは】

IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

導入する年（中学校英語は令和8年度）の全国平均を基準値とし、経年比較が可能な形で算出します。

【IRTバンドとは】

IRTスコアを1～5の5段階に区切ったものです。3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなります。

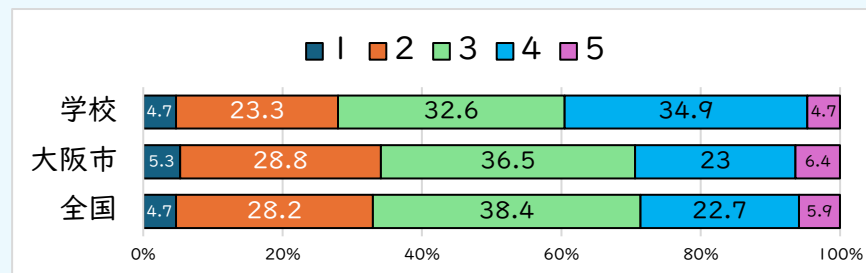
※IRTスコア・IRTバンドは、難易度の高い問題にしていると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出されます。

IRTバンド分布比較（3技能）

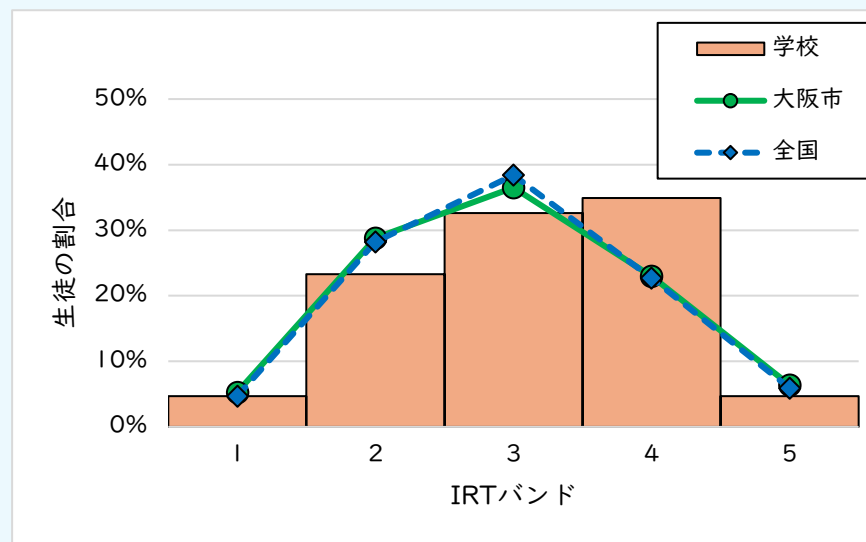
	1	2	3	4	5
学校	4.7	23.3	32.6	34.9	4.7
大阪市	5.3	28.8	36.5	23	6.4
全国	4.7	28.2	38.4	22.7	5.9

※3技能のIRTバンド分布です

IRTバンド分布比較（3技能）



IRTバンド分布グラフ（3技能）



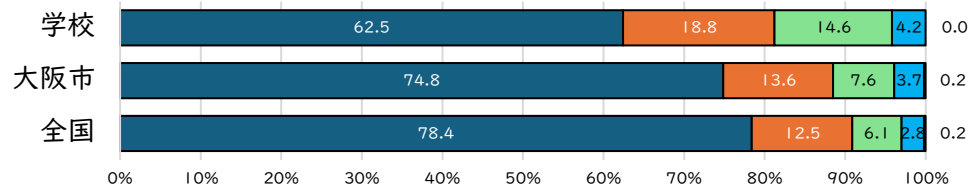
生徒質問調査より（１）

※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5 ■ 6 ■ 7 □ その他・無回答

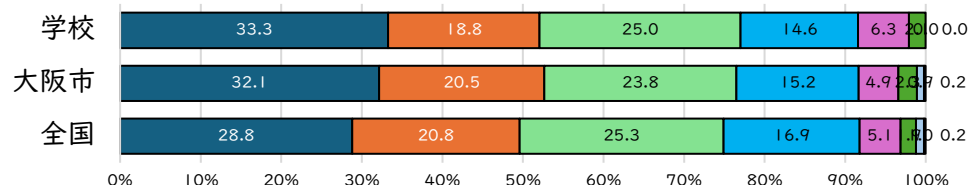
質問番号 質問事項

(1) 朝食を毎日食べていますか



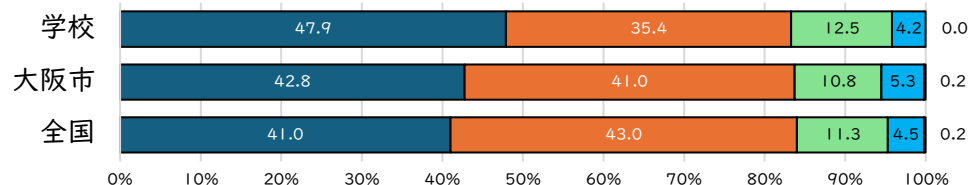
1 している
2 どちらかといえば、している
3 あまりしていない
4 全くしていない

(4) 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等（以下、「スマートフォン等」）でSNSや動画視聴などをしますか（スマートフォン等を持っていない場合は「7 スマートフォン等を持っていない」を選択してください）



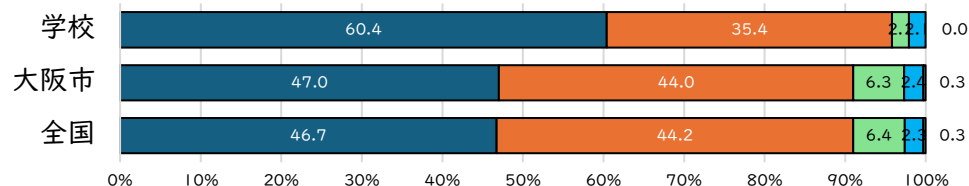
1 4時間以上
2 3時間以上、4時間より少ない
3 2時間以上、3時間より少ない
4 1時間以上、2時間より少ない
5 30分以上、1時間より少ない
6 30分より少ない
7 スマートフォン等を持っていない

(8) 自分には、よいところがあると思いますか



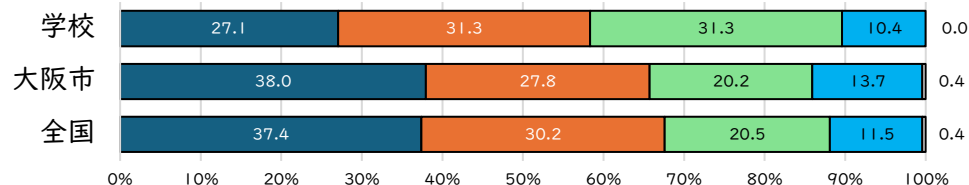
1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない

(9) 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない

(10) 将来の夢や目標を持っていますか



1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない

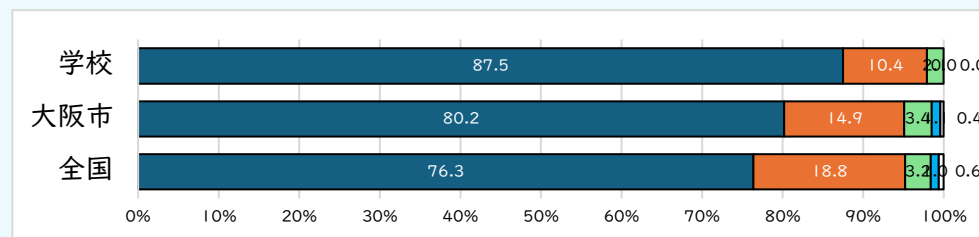
生徒質問調査より（２）

※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5 ■ 6 ■ 7 □ その他・無回答

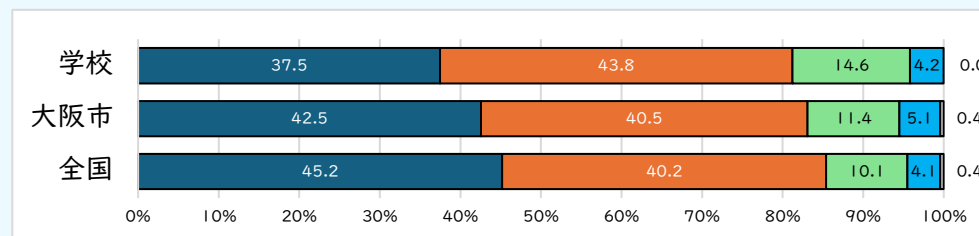
質問番号 質問事項

(12)	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか
------	------------------------------



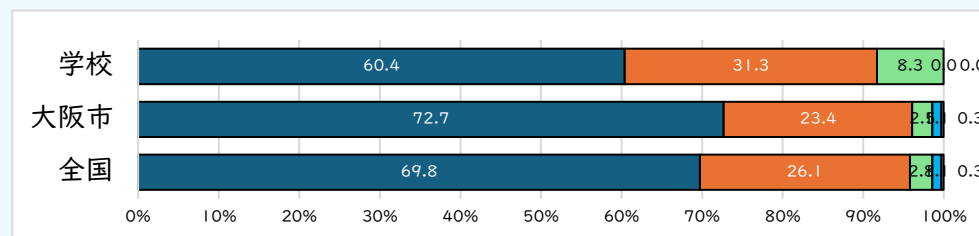
- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない

(15)	学校に行くのは楽しいと思いますか
------	------------------



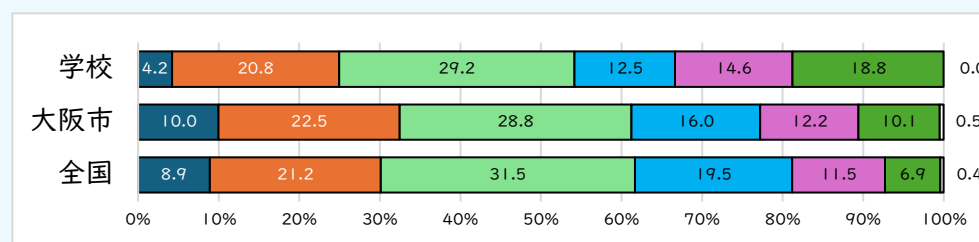
- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない

(14)	人の役に立つ人間になりたいと思いますか
------	---------------------



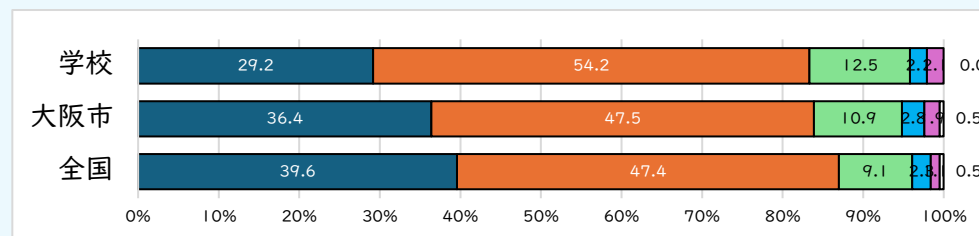
- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない

(23)	学校の授業時間以外に、自宅（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）
------	--



- 1 3時間以上
- 2 2時間以上、3時間より少ない
- 3 1時間以上、2時間より少ない
- 4 30分以上、1時間より少ない
- 5 30分より少ない
- 6 全くしない

(42)	学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか
------	---



- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない
- 5 学級の生徒との間で話し合う活動を行って

学校質問調査より

※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

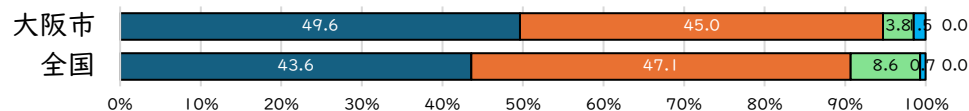
質問番号

質問事項

(8)

調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

【学校の回答】 1 そう思う

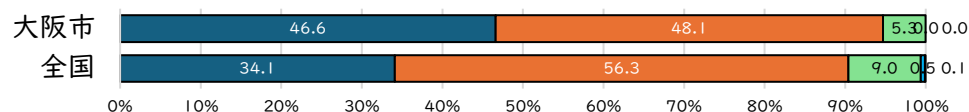


- 1. そう思う
- 2. どちらかといえば、そう思う
- 3. どちらかといえば、そう思わない
- 4. そう思わない

(9)

調査対象学年の生徒は、礼儀正しいと思いますか

【学校の回答】 1 そう思う

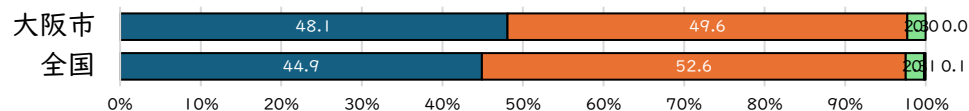


- 1. そう思う
- 2. どちらかといえば、そう思う
- 3. どちらかといえば、そう思わない
- 4. そう思わない

(10)

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導を行いましたか

【学校の回答】 2 どちらかといえば、行った

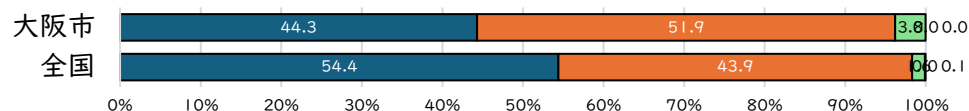


- 1. よく行った
- 2. どちらかといえば、行った
- 3. あまり行わなかった
- 4. 全く行わなかった

(11)

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組を行いましたか

【学校の回答】 1 よく行った

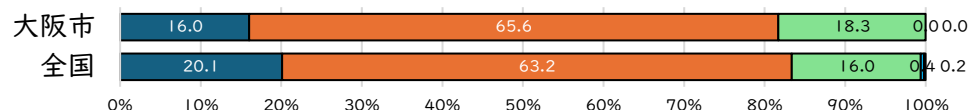


- 1. よく行った
- 2. どちらかといえば、行った
- 3. あまり行わなかった
- 4. 全く行わなかった

(76)

ICT機器を活用して各教科等における見方・考え方を働かせるような学習指導を行いましたか

【学校の回答】 1 よく行った



- 1. よく行った
- 2. どちらかといえば、行った
- 3. あまり行わなかった
- 4. 全く行わなかった